

●全国路地サミット2011 in 向島の開催が間近

今週末の10月21日(金)から23日(日)にかけて、墨田区は東京スカイツリーのお膝元の向島において、全国路地サミットが開催されます。平成15年の北区十条から始まり、大阪空堀、東京神楽坂、長野諏訪、静岡新居、長野・松代、神戸そして昨年の新潟古町と続き、今年は9回目にあたります。

このサミットは、I氏が路地に着目し、『いっそ全国路地サミットでも開催してみたらどうか』の一言から始まりますが、この発言は向島で開催されたまちづくりシンポジウムでのことでした。(「路地からのまちづくり/学芸出版社」の261ページを参照)

ということで、いま地元は路地サミット発祥の地として意気揚々と、お迎えの準備を整えつつあります。3日間開催・ツアー3回・懇親会2夜連続はいずれも史上初です。FAXまたはE-mailで申し込みできます。下記のホームページからお入りください。

<http://jsurp.net/roji/summit/09/summit09top.html>

高尾 利文(第二計画部)

●橋本地区TDM交通社会実験 ~橋本駅南口スイスイ作戦始動!~

以前、このホットニュースでお知らせをしました交通社会実験が、いよいよ開始されます。実施期間は10月17日(月)から28日(金)の約2週間。橋本駅南口駅前広場や主なアクセス道路で、交通規制を伴う大掛かりな交通社会実験となっています。実験の内容は下記のHPで紹介していますので、ここではこの実験で特筆すべき「マイカー送迎に関わる実験」を紹介します。

相模原市ホームページ

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/toshikotsu/20803/20811/020812.html>

橋本地区TDM交通社会実験実行委員会ウェブサイト

<http://www14.plala.or.jp/hashimoto-tdm/index.html>

どこの駅でもマイカー送迎で問題となるのは、迎えの待機車両による駅周辺の路上駐車ではないでしょうか。これに対して、待機は駅周辺の商業施設の駐車場を利用してもらおう、というのが今回の試みです。駅前では迎えの人が到着してから、「乗降のみ」行ってもらうことで平均停車時間を短縮し、駅前の少ない乗降バースを効率よく利用しようという考えです。

さらにこの取組に合わせてモビリティ・マネジメントを実施しています。新たな送迎スタイルの啓発も兼ねており、マイカー送迎者に直接配布するタイプのモビリティ・マネジメント(マイカー送迎MM)で、日本初?の取組です。すでに先月に事前調査を行っており、駅前でマイカー送迎をしている人に直接手渡しで1,500票配布しています。回収票は約300で、うち83名が住所・氏名を記入していただきました。この83名には、今回の実験に合わせて個別アドバイスを行っており、実験の感想も含めて事後調査も実施する予定です。

今回のマイカー送迎MMのポイントは、まず、通常のMMで実施される交通手段の変更(クルマから徒歩・自転車やバスへの変更)を促す。次に、どうしても手段の変更が難しい人には、利用の適正化(路上駐車から駐車場の利用に変更)を促す。といった2段構成であることです。

新たなマイカー送迎スタイルの実験も含めて、結果が出るのはこれからですが、ある程度想定どおりの数字が出れば、今後マイカー送迎で同様の問題を抱える多くの都市において、大規模な基盤改修を伴わない有効な手法として活用できるのでは?と期待しています。

五十嵐 淳(第一計画部)

●電氣化されていく途上国のパラトランジット

発展途上国の公共交通というと、鉄道やバスよりもパラトランジットを連想される方も多いのではないのでしょうか。例えば、タイのトゥクトゥク(三輪タクシー)、フィリピンのジープニー(乗合タクシー)やトライシクル(三輪タクシー)、ベトナムのセオム(バイクタクシー)などがあります。これらのパラト

ランジットは現地の人々にとっては安価で便利な移動手段となっていますが、同時に排気ガスによって大気汚染や地球温暖化に大きな影響を与えています。

近年、これらパラランジットの電氣化の動きが徐々にではありますが始まっています。具体的にはアジア開発銀行の援助により今年4月にマニラ首都圏にあるマンダロン市で電氣トライシクル (E-trikes) が運行を開始しました。このE-trikes、マンダロン市のパイロット・プロジェクトではまだ20台しか導入されていませんが、仮にマニラ首都圏にあるトライシクルの10% (約20,000台) が電氣化されると年間当り100,000トンものCO2が削減されることとなります。また環境に優しいだけでなく、ガソリンから電氣への転換によりランニング・コストが下がるため、ドライバーの収入が約350円/日も増えることとなります。その他にもE-trikesをフィリピン国内で生産するため、新たな雇用創出にも繋がっていきます。アジア開発銀行の援助で始まった事業ですが、現在では民間企業が少しずつ参入し始めているようです。

電氣化の動きはトライシクルだけではなく、フィリピンのジープニーを始めとし、ネパールの乗合タクシーやインドの電動三輪車などがあります。電氣の確保やライフサイクル評価の点で本当に環境に優しいのか等、いろいろ課題はあるかと思いますが、開発途上国の未来のためにもこの様な事業に日本の企業も意欲的に進出してくれることを期待します。

渡辺 千華 (海外室)

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

Copyright 2011 ALMEC Corporation. All rights reserved.